肥料＆農薬技術情報

令和８年 10 月 ８ 日発行
10 月号
JA 全農えひめ
生産資材部
肥料農薬課

1. 今月の農作業
2. 果樹秋肥の施用について
3. 病害虫管理について
4. 果樹カメムシ類による被害にご注意を！
5. 稲刈取後の除草剤散布で翌年の雑草抑制を
6. 水稲収穫後の土づくり推奨資材
7. 園芸作物の土づくり推進資材
8. 柑橘・新改植時の土づくりについて

１．今月の農作業

≪気象予報≫

９月 26 日～10 月 25 日までの天候見通し

四国地方	平均気温（１か月）	降水量（１か月）	日照時間（１か月）
各階級の確率	低:10% 並:30% 高 60%	少:40% 並:40% 多:20%	少:20% 並:40% 多:40%
平年比	高い見込み	平年並か少ない見込み	平年並か多い見込み

令和８年９月24日　高松地方気象台　発表

≪水稲≫

水管理・落水（普通期）

登熟期間は間断かん水により土壌を**湿潤気味に管理**してください。
落水時期が早いと玄米の粒厚が薄くなり、品質・食味低下を招くため、
収穫５～７日前の落水を基準とし、天候や水田の状況を見て判断してください。
また落水日までは水を張っておき、**一気に落水**しましょう。

収穫適期

本年の普通期水稲の**出穂時期は昨年並み～やや遅く、登熟期間も昨年並みの高温で推移**しているため、成熟期は昨年並み～やや遅くなると予想されます。
収穫にあたっては下表を参考にほ場観察を行い、適期収穫に努めましょう。

	ひめの凜	ヒノヒカリ	にこまる	松山三井
出穂後日数(日)	37～43	40～46	42～48	50～57
最長稈黄変籾率(%)	85	85	90	90
積算温度(℃)	900～1,000	900～1,050	1,000～1,150	1,050～1,200

※ひめの凜は刈遅れを防ぐため、黄変籾率 85%に達したら刈り始めましょう。
ヒノヒカリは、刈り遅れると茶米が混ざり品質が低下しやすいので注意してください。

乾燥

収穫した籾は**長時間堆積したまま放置すると品質が低下**するため、
収穫後は速やかに乾燥を行いましょう。
食味低下を防ぐため、乾燥温度はできるだけ低温に設定し、
乾減率は毎時 0.8%程度で行いましょう。
玄米の仕上がり水分は 14.5%を目標とし、過乾燥（14%以下）
や高水分（15%以上）とならないよう注意してください。

次作の水田雑草防除

近年は除草剤だけに頼った雑草防除が増えており、除草剤が効きにくい難防除雑草が増加しています。
ノビエ等の一年生雑草は、放置すると多量の種子を作り、次年度の多発生につながるので、なるべく早い時期に抜き取りましょう。
ミズガヤツリ、クログワイ等の多年生雑草は、地下茎や塊茎で繁殖するため、
水稲収穫後、非選択性茎葉処理剤のスポット散布や、反転耕で土中の塊茎を露出させ、乾燥と寒気で枯死させましょう。

写真１　ノビエ

写真２　クログワイの塊茎

≪大豆≫

大豆は子実肥大期～成熟期となります。
この時期にほ場が長時間湛水すると、根痛みによる登熟不良を引き起こすほか、
倒伏した莢が浸水すると腐敗粒増加の要因となりますので、
収穫期まで明渠の補修や排水口との接続等により停滞水の排水に努めましょう。

≪麦≫

種子の準備

自家採種を続けると品種特性の劣化や混種、変種が起こるため、２～３年に１回は種子更新を行ってください。
また、種子伝染性病害（裸黒穂病、斑葉病など）を防除するため、
種子消毒は必ず行いましょう。
薬剤はベンレートＴコート（乾燥種子重量の 0.5%粉衣処理）などを用いましょう。

写真３裸黒穂病

播種前のほ場の準備

麦の播種期の多雨は出芽不良や減収を招くため、湿害対策は万全に行いましょう。
水稲収穫後できるだけ速やかに、額縁明渠（写真４）や弾丸暗渠（写真５）を施工し、
ほ場の乾燥に努めましょう。
チゼルプラウ耕（写真６）を併用すると土壌が乾きやすくなり、播種時の砕土性が向上します。

写真４　額縁明渠の施工

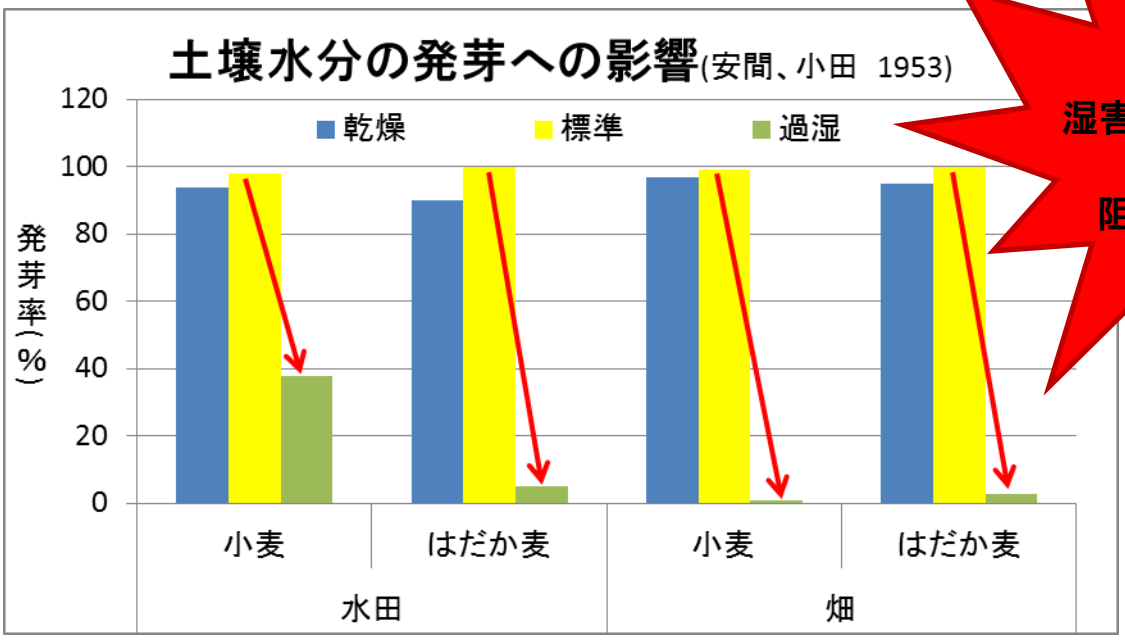
写真５　弾丸暗渠の施工

写真６　チゼルプラウ耕

（農林水産研究所）

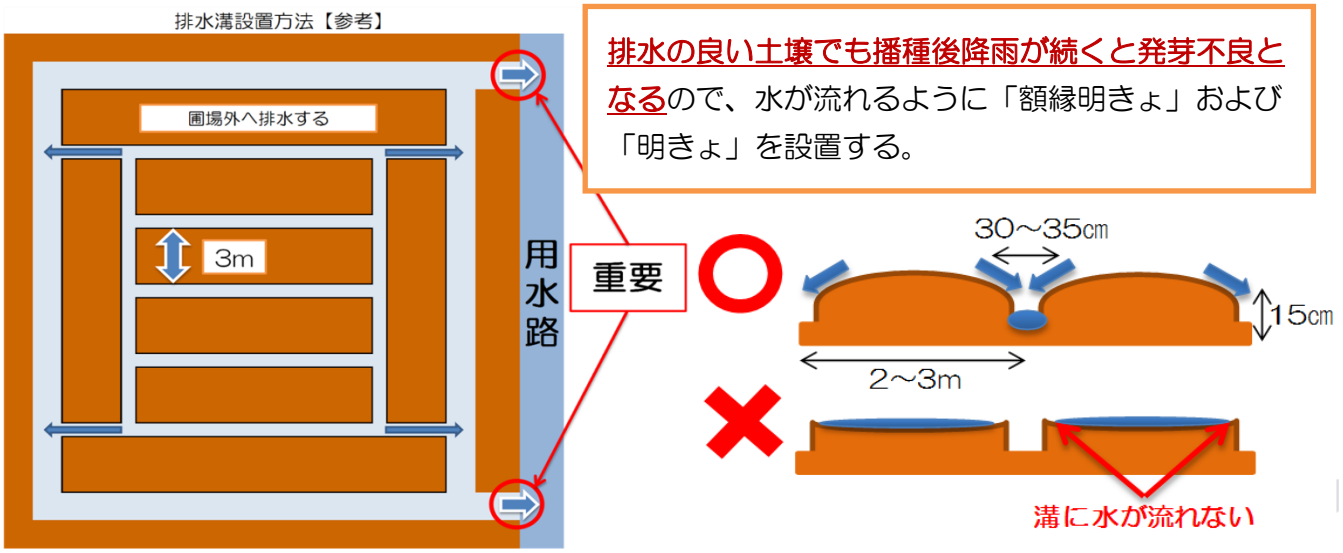
■湿害対策（排水対策）

・はだか麦は<u>湿害に最も弱い麦類</u>で、湿害対策が不可欠です。



湿害によって発芽が阻害される！！

◎ <u>基本的整備</u>→暗きょ・<u>明きょの整備</u>
◎ <u>補助的整備</u>→サブソイラー等による<u>心土破砕による地下排水</u>の改善
「暗きょ」は土木工事を必要とし、「弾丸暗きょ」は施工に専用の器具を必要とするため、基本的には<u>2～3m毎に「明きょ」</u>を設置して表面排水を良くすることが必要です。



<u>排水の良い土壌でも播種後降雨が続くと発芽不良となる</u>ので、水が流れるように「額縁明きょ」および「明きょ」を設置する。

■耕起

<u>何回も耕起することは排水性を悪化させます</u>。土壌が細かくなりすぎると、耕起後の雨で逆に水はけが悪くなって播種できなくなったり、湿害を助長したりします。

そのため、事前の耕起は、<u>播種直前に１回まで</u>としましょう。

ただし、前作が水稲の場合、稲刈り後すぐの耕起で稲藁やひこばえをすき込み、土壌をしっかり乾燥させましょう。

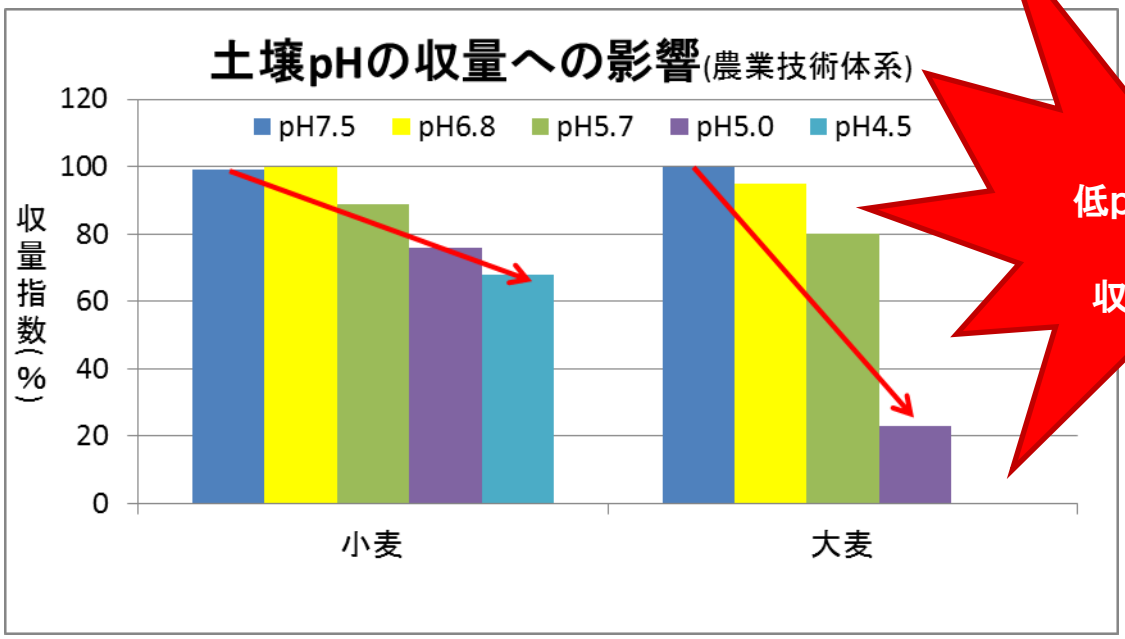
■土づくり

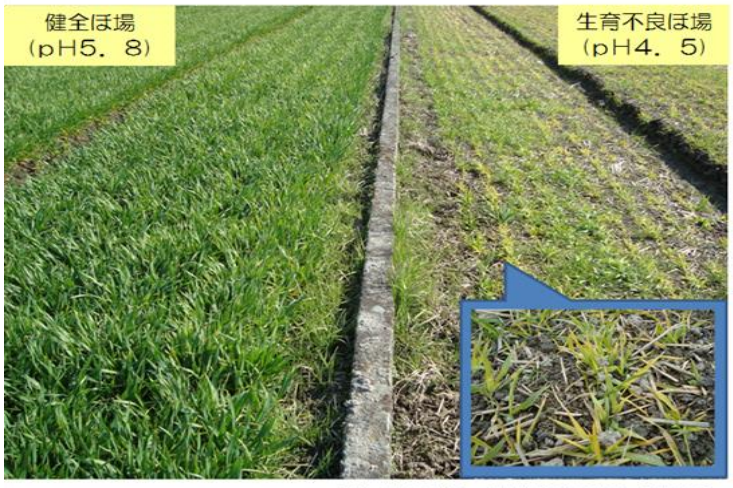
（1）堆肥や稲わらの投入

土壌の通気性や透水性を改良して根の進捗を促し、麦の健全な発育を進めます。

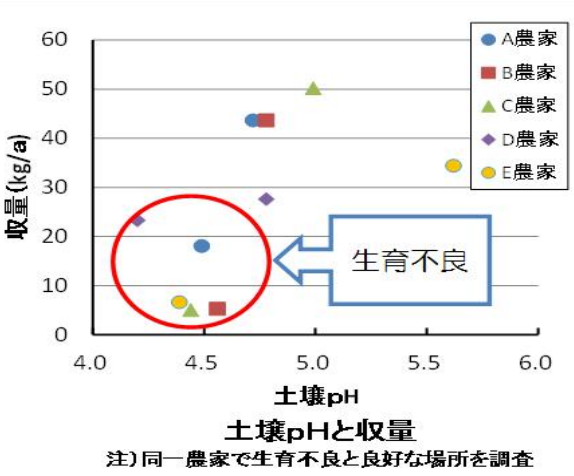
（2）土壌改良資材の施用

麦は稲よりも<u>酸性土壌に弱く酸性土壌では生育不良</u>となります。
麦の適正ｐＨは裸麦では 6.2～6.9、小麦では 5.5～7.5 で、石灰資材によるｐＨ調整が必用です。
<u>湿害などがなく生育不良が続いている圃場は、耕起前に土壌ｐＨ の測定を行い、苦土石灰などの土壌改良資材で適正なｐＨにすることが必要</u>です。

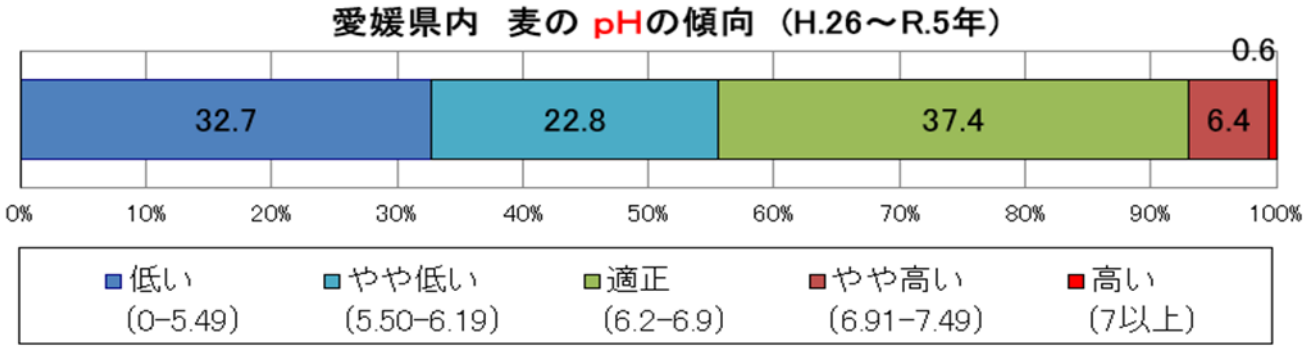




農林水産研究所　木村浩主任研究員　資料より



土壌pHと収量
注）同一農家で生育不良と良好な場所を調査



愛媛県内の麦土壌の近年のpH値は、はだか麦の適正値の 6.2～6.9 に達してない土壌が 55.5%もあります！

品名	苦土石灰	アヅミン苦土石灰
規格	20kg	20kg
商品写真		
施用量（10a）	5袋	5袋
特徴	●高成分の原石をそのまま粉末にした生の肥料です。 ●土壌のpHを矯正し、NPKのみならず作物に必要な微量要素の吸収を促進します。 ●土壌とゆるやかに反応し効果が永続きし、苦土の効きかたも緩効的です。 ●やりすぎによる害も起きにくく安心して使えます。	●アヅミンの働きにより、表層施用でも石灰や苦土の分散・浸透を促します。 ●アヅミンの働きにより根の活性を高め、発根（特に養分、水分の吸収に必要な細根）を促進します。 ●アヅミンの働きによって有効化した石灰・苦土はよく吸収されますので果樹や野菜の品質が向上します。

■雑草防除対策

～耕起前処理を実施することで、雑草の発生を減らしましょう～

耕起前

・非選択性除草剤を散布

↓

すでに発生している雑草が枯死

↓

土壌表層の種子**減**

浅耕（約 5cm）

・新たな雑草の発生を**減**

※下層の種子を表層に移動させないように約 5cm 程度行う

耕起時

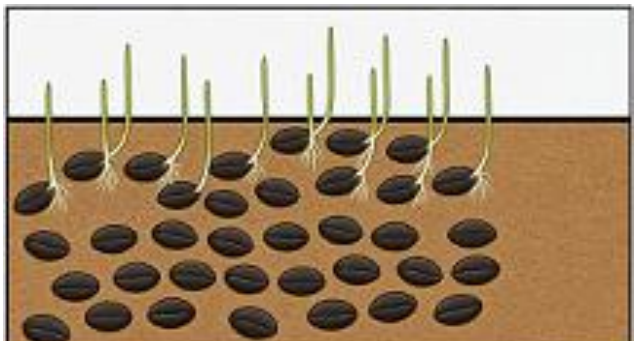
・土壌処理除草剤を処理

※土壌処理剤の効果を最大限引き出すには…？？

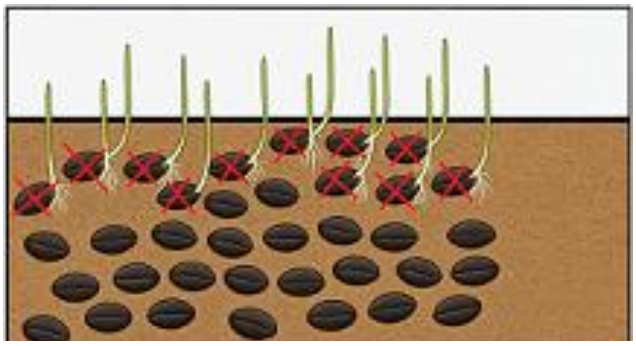
↓

耕起をゆっくり行い、砕土を徹底することで土壌にまんべんなく行き渡らせる！

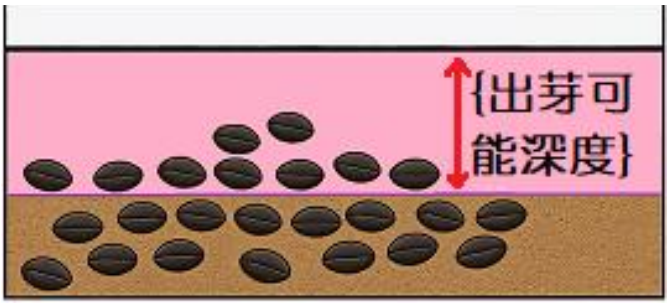
・イメージ図



① 麦播種までに土壌表層の種子の多くが出芽



②非選択性除草剤で出芽固体を防除



③下層にある雑草種子を表層に移動させない

2. 果樹の秋肥の施用

秋肥の役割

果実生産で消耗した養分補給、樹勢回復、耐寒性向上、翌年の花芽分化促進

秋肥は果実によって樹体から取り除かれた養分を補給し、栄養状態を回復させるためのものです。

耐寒性の向上や翌年の花芽の着生に役立ちます。そのために、吸収された養分が年内に枝や葉に転流されることが重要となります。地温が 12℃を下回ると根の活力が低下し養分吸収が抑制され、お礼肥としての効果が低下するため、早めの施肥が効果的となります。ただし、当年の果実の収穫時期との兼合いで、品種毎の施肥時期に留意することが重要です。

施肥時期と施肥量

種類	施肥時期	施肥量		
		N	P	K
ハウスミカン 6 月～8 月収穫園	収穫直後	12	8	9
	10 月上旬	4	4	4
ハウスミカン 8 月～9 月収穫園	収穫直後	10	7	7
	10 月下旬	6	4	5
極早生温州（10 月中旬までに大部分収穫することを前提）	10 月上旬	8	6	6
	11 月上旬	5	3	3
極早生温州マルチ栽培	収穫直後	11	8	9
早生温州	10 月下旬	11	7	7
早生温州マルチ栽培《緩効性一発肥料を用いた場合》	10 月下旬	18	12	12
早生温州マルチ栽培	収穫直後	11	7	8
普通温州みかん（マルチを含む）	11 月上旬	10	6	7
普通温州みかん《緩効性一発肥料を用いた場合》	11 月上旬	22	15	17
早生伊予柑	8 月下旬	7	6	6
	11 月上旬	7	5	5
普通伊予柑	9 月上旬	8	6	7
	11 月上旬	7	4	5
甘夏柑	9 月上旬	8	7	7
	11 月上旬	6	4	5
八朔	9 月上旬	8	6	8
	11 月上旬	6	5	5
ネーブルオレンジ	9 月上旬	8	5	7
	11 月上旬	8	5	5
ポンカン	11 月上旬	7	5	6

清見	9 月上旬	8	7	7
	11 月上旬	8	6	7
甘平	9 月上旬	8	7	7
	11 月上旬	8	6	7
不知火	11 月上旬	8	6	6
愛媛果試第 28 号（紅まどんな）	11 月上旬	8	5	6
河内晩柑	10 月下旬	9	7	7
ゆず	9 月中旬	6	4	5
	10 月下旬	9	6	7

《マルドリ方式の場合》

種類	施肥時期	施肥量		
		N	P	K
早生温州	収穫直後	8	5	6
愛媛果試 28 号	11 月中旬	6	4	4
甘平	11 月上旬	6	4	5
はれひめ	11 月中旬	7	4	5

《落葉果樹》

種類	施肥時期	施肥量		
		N	P	K
かき	10 月中旬	6	3	6
ぶどう	10 月中旬～11 月上旬	9	8	8
シャインマスカット	10 月下旬～11 月下旬	6	4	4
もも	10 月下旬～11 月中旬	9	6	9
キウイフルーツ	11 月上旬	10	8	9

（県農産園芸課）

≪施用適期を逃した場合≫

秋肥は施用時期が遅くなると、「お礼肥」として地上部器官への移行は遅れますが、
地下部器官へは吸収され、翌春の新梢・花蕾の形成に寄与します。

適期を逃した場合は、即効性の化成・液肥等で必ず施用しましょう！！

○果樹におすすめの葉面散布用カルシウム資材

銘柄	写真	主要成分	保証成分 CaO(%)
カルタス		キレートカルシウム	10
スイカル		有機酸カルシウム （ギ酸カルシウム）	42
バイカルティ		有機酸カルシウム （ギ酸カルシウム） 高分子カルシウム	34
カキパック		有機石灰 （カキ殻由来）	(3)
セルバイン （ミカン用）		硫酸カルシウム 塩化カルシウム	25
カルプラス		有機キレート カルシウム	11
カルハード		有機キレート カルシウム	11

銘柄	写真	主要成分	保証成分 CaO(%)
カルビタ		有機酸カルシウム （リンゴ酸カルシウム）	(18)
カルビタ Ｐ		有機酸カルシウム （リンゴ酸カルシウム）	(14)
カルビタ ＰＫ		有機酸カルシウム （リンゴ酸カルシウム）	(17)
カルクロン		塩化カルシウム	30
アグリメイト		有機酸カルシウム６％ 塩化カルシウム７％	13
クレフノン		炭酸カルシウム９５％	―

≪カルシウム剤の種類について≫

葉面散布用のカルシウム資材には、無機塩の塩化カルシウム、炭酸カルシウム、第一りん酸カルシウムなどがありますが、これらは、イオン結合のため、作物体内を移動中のカルシウムがほかの陰イオンとすぐに結びつき、必要なところまで運ばれる前に、利用され十分な効果が得られにくい場合もあります。

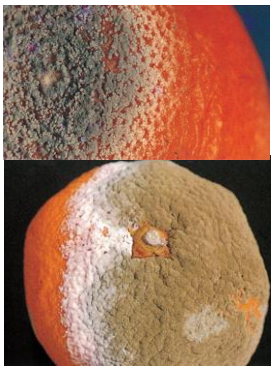
　それに対し、より強いキレート結合させた有機酸カルシウム資材は、必要なところ（果実・生長点など）まで運ぶ能力に優れるため、カルシウムが効率よく吸収利用されます。

3. 病害虫管理について

愛媛県病害虫防除所

(写真：愛媛、宮城、千葉県 HP、愛媛県農作物病害虫雑草図鑑)

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
トビイロウンカ	水稲 ※R8.8.27付け令和８年度病害虫防除技術情報（第５号）参照	並～やや多	・圃場全体を注意して見回り、黄化症状などの変化を見逃さないよう注意する。 ・定期防除後も黄化や坪枯れ症状が見られたら、早急に応急防除を実施し、坪枯れ被害の発生圃場では、可能な限り収穫を早めて被害の拡大を防ぐ。	
吸実性カメムシ類	大豆	並～やや多	・莢伸長終期から子実肥大終期にかけて吸汁被害が多くなるので、防除は子実肥大期に 10～15 日間隔で２回程度実施する。 ・ミナミアオカメムシについては、特に 10 月以降、収穫終了後の普通期水稲からの移動により密度が高まることがあるため注意する。	
かいよう病	かんきつ	少～やや少	・強風等により付着すると発病が助長されるので台風襲来前後の薬剤散布や暴風対策を行う。 ・発病果や発病枝葉は早期に除去し、園内の病原菌密度を低下させる。 ・本病に罹病性の品種は、夏秋梢や果実の発病に特に注意する。 ・甘平、愛媛果試第 48 号、はれひめ等の罹病性品種は注意する。	
褐色腐敗病	かんきつ	少～やや少	・敷き藁やマルチなどで、雨水による病原菌の跳ね上がりを防ぐ ・発病果は二次伝染の原因となるので、発見次第園外に処分する ・薬剤防除は、発生してからでは十分な効果が得られないので、発生前（降雨前）に防除する。	

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
貯蔵病害（緑かび病、青かび病）	かんきつ	やや少～並	・収穫後の予措、貯蔵中の温湿度管理を適正に行い、腐敗果は発見次第除去する。 ・降雨直後など果面が濡れている場合には収穫しない。 ・収穫の 1～2 週間前に必ず薬剤による防除を行う。 ・散布後に 100mmの降雨があれば再度散布する。	
ミカンハダニ	かんきつ	やや多～多	・園内の多発樹で、1 葉当たり２～３頭を目安防除する。 ・秋季は果実や葉裏への寄生が増加するので、薬液はかけむらの内容に丁寧に散布する。	
果樹カメムシ類	かんきつ かき等 ※R8.8.18付け令和８年度病害虫発生予察注意報（第３号）参照	やや多～多	・飛来時期や飛来量は園地により異なるため、園地観察を行い、発生を認めたら、各地域の防除暦に従い速やかに防除を行う。 ・主に山林から果樹園に飛来するため、山林に近い園地で被害が多い傾向にあるので注意する。 ・台風等の通過後、一時的に果樹園へ飛来する場合があるので注意する。 ・収穫期が間近となる果樹では薬剤の選択に注意する。	
炭疽病	かき	少～やや少	・園地観察に努め、発病枝及び発病果実は早期に除去し、園外で適切に処分する ・果実の感受性が高まる時期となるので、常発地では定期防除に努め、天候不順が続けば追加防除を実施する。	
ハスモンヨトウ	大豆、いちご、冬春野菜全般	並～やや多	・産卵は卵塊で行われ、ふ化後間もない幼虫は集団加害し白変葉となるため、見つけ次第除去し、捕殺する。 ・幼虫が成長すると薬剤の効果が低下し、食害量も増加してくるので、若齢幼虫期に防除する。 ・施設栽培では開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防ぐ。	
オオタバコガ	冬春野菜全般	やや少～並	・圃場観察により幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。	

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
アブラムシ類	いちご 冬春野菜 全般	並～やや多	・圃場観察により早期発見に努め、低密度時に防除する。 ・いちごではミツバチや天敵類への影響を考慮し、薬剤を選定する。	
ハダニ類	いちご 冬春野菜 全般	並～やや多	・圃場周辺の除草を徹底する。 ・いちごでは天敵やハチへの影響を考慮し、初期防除を徹底する ・早期発見に努め早めに防除する ・ローテーション防除を実施する	
シロイチモジヨトウ	冬春野菜 全般	並～やや多	・寄生範囲が広く多くの野菜作物を食害する。 ・圃場観察により幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。	 シロイチモジヨトウ

各 JA の防除指針通り

病害虫の防除を徹底して下さい！！

4. 果樹カメムシ類による被害にご注意を！

愛媛県病害虫防除所発　令和８年度病害虫予察注意報（第３号）より

（1）対象病害虫

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

（2）対象作物

かんきつ、かき、キウイフルーツ等

（3）対象地域

県下全域

（4）発生程度

やや多～多

（5）防除上の注意

- 主に山林から飛来するため、山林に近い園地で被害が早く発生する傾向があります。
- 飛来は曇天で夜温があまり下がらない日に多くなるので、飛来が見られたら早めに防除を行いましょう。なお、飛来は日没 30 分後～３時間後が多く、防除は夕方の実施が効果的です。
- 台風の通過後は、園地へ多飛来する事例が多いため注意しましょう。
- 飛来が続く場合は継続的な防除が必要ですが、ミカンハダニやカイガラムシ類は薬剤の影響によるリサージェンスが起こる可能性があります。散布後の発生には十分注意しましょう。

画像　チャバネアオカメムシ

表　主な防除薬剤一覧※

作物	IRAC コード	薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数	毒性	
						人毒	水産
かんきつ	4A	アドマイヤーフロアブル	2,000	収穫14日前まで	3回以内	劇物	△
		ダントツ水溶剤	4,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
		アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫14日前まで	3回以内	普通	△
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
		モスピラン顆粒水溶剤	2,000	収穫14日前まで	3回以内	劇物	△
		モスピランＳＬ液剤	2,000	収穫14日前まで	3回以内	劇物	△
	3A	ロディー乳剤	2,000	収穫7日前まで	4回以内	劇物	×
		テルスターフロアブル	5,000	収穫前日まで	3回以内	劇物	×
かき	1B	スミチオン水和剤40	1,000	収穫30日前まで	3回以内	普通	△
	4A	アドマイヤー水和剤	1,000	収穫7日前まで	3回以内	劇物	△
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
		アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫3日前まで	3回以内	普通	△
		モスピラン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	劇物	△
		ダントツ水溶剤	4,000	収穫7日前まで	3回以内	普通	△
	28+4A	キックオフ顆粒水和剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
	3A	アグロスリン水和剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	劇物	×
		テルスター水和剤	2,000	収穫14日前まで	2回以内	普通	△※
		テルスターフロアブル	5,000	収穫3日前まで	2回以内	劇物	×
		ロディー水和剤	1,500	収穫7日前まで	3回以内	劇物	×
	2B	キラップフロアブル	2,000	収穫7日前まで	2回以内	普通	○
キウイフルーツ	4A	アドマイヤーフロアブル	2,000	収穫前日まで	2回以内	劇物	△
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
		ダントツ水溶剤	4,000	収穫前日まで	3回以内	普通	△
	3A	アディオン乳剤	2,000	収穫7日前まで	5回以内	普通	×
		アグロスリン乳剤	2,000	収穫7日前まで	3回以内	劇物	×
		テルスターフロアブル	3,000	収穫前日まで	2回以内	劇物	×

注１）水産：水産動植物への影響（表記については令和７年度愛媛県農作物病害虫等防除指針P.8参照）

※表２　主な防除薬剤一覧（令和７年度愛媛県農作物病害虫等防除指針より抜粋）　（令和７年９月３０日付病害虫防除技術情報（第６号）引用）

5. 稲刈取後の除草剤散布で翌年の雑草抑制を

★プリグロックスＬ…ヒエなどのイネ科雑草に対してオススメ！

特徴

- 本剤がイネ科雑草植物体上の種子に付着した場合、成熟した種子がこぼれ落ちても新たな発生源にならない。（イネ科雑草種子発芽後枯殺効果）
- 気温が低い秋冬期でも効果が安定

使用時のポイント

- 耕起する前に散布を行う（種子に薬液を付着しないと効果がありません！）。
- 種子に薬液を付着させるために、散布機やスプレーヤーの圧力を高めにして散布する。
- 稲わらが多い場合は、朝露や雨後など、稲わらが濡れているときの散布がおすすめ
- 稲刈りしてから１か月後～11 月中旬ごろが最適

作物名	適用雑草名	適用場所	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	ジクワットを含む農薬の総使用回数	パラコートを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草	－	秋期稲刈取後又は春期水田耕起1ヶ月前から直前まで	800～1000mL/10a	100～150L/10a	1回	雑草茎葉散布	1回	1回
直播水稲	一年生雑草	－	秋期稲刈取後又は春期水田耕起1ヶ月前から直前まで又は雑草生育期、は種前14日～は種後7日（イネ出芽前）	600～1000mL/10a	100～150L/10a	1回	雑草茎葉散布	1回	1回

★ラウンドアップマックスロード…クログワイ、アシカキなどの難防除雑草に対してオススメ！

特徴

・クログワイ、イボクサ、アシカキ等などの難防除雑草に対して効果

・地上部だけでなく、根まで枯らす（翌年の塊茎生成数の減少も期待できます。）

※地上部に発生のない雑草（土壌中の埋没種子など）には効果がないので、数年（3 年程度）継続使用することをおススメします！

使用時のポイント

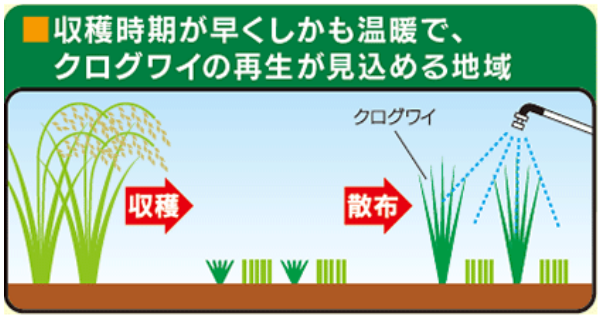
・雑草に直接かかるよう散布する。（クログワイは草丈 20 ㎝以上確保）

・耕起により塊茎を地表部に出しておけば、より効果的

・稲刈約 3 週間後がおすすめ

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の	使用方法	グリホサートを含む
				薬量(ml)	希釈水量(l)	使用回数		農薬の総使用回数
水田作物（水稲刈跡）	水田刈跡	一年生雑草	雑草生育期	200～500	通常散布	1回	雑草茎葉散布	1回
					50～100ℓ/10a			
					少量散布			
		多年生雑草		500～1000	5～50ℓ/10a			

使用ノズル	通常ノズルをご使用の場合	ラウンドノズル®ULV5をご使用の場合
散布面積	10aあたり	10aあたり
希釈水量	50ℓ～	5ℓ～
薬量	1000mℓ	1000mℓ



〇クログワイの緑色の茎葉部（20cm 以上を確保）に十分散布してください。（刈取り時に稲わらを持ち出すことをお勧めします。）

〇十分な草丈がない場合は、丁寧な散布を心かけてください。

※高刈りの高さは品種等によって、違う場合があります。20cm はあくまでも目安です。

6. 水稲収穫後の土づくり推奨資材

品名	新美土里	アヅミン	石灰窒素	根友 G
規格	18kg	20kg	20kg	20kg
商品写真				
施用量（10a）	3 袋	2 袋	1～2 袋	1～2 袋
特徴	●溶解性の高いケイ酸資材を使用しているため、ケイ酸の効率が良く、10ａあたり３袋の施用で毎年不足するケイ酸が補給できます。 ●「マンガン」を新たに含有することで、酸化鉄との相乗効果で硫化水素の発生が原因である秋落ちを抑制します。	●腐植酸を約 50%含有しているので、堆肥１ｔ分の腐食酸を約２袋で補える省力資材。 ●保肥力を改善し肥料成分の流亡を軽減します。 ●養分吸収の促進、リン酸固定の軽減に役立ちます。	●稲刈り後の稲わら腐熟促進、野菜残渣の腐熟促進、カルシウムでｐＨ改善。 ●石灰は土壌中の酸性をなおし養分としてもよく吸収されます。	●光合成細菌、放線菌、繊維素分解菌などの各種有効微生物群をカルシウム系キャリアに吸着した綜合微生物資材です。 ●これらの微生物群は有機物を速やかに腐熟分解させながら増殖して土壌を活性化させます。

※土づくりに伴い水稲収穫後の稲わらを土壌にすき込むことで、未熟な稲わらによる障害（窒素飢餓、田植機など作業機械の効率低下）を防止できます。また、麦類を栽培する場合、播種前まで稲藁を放置していると、土壌の乾燥を阻害して発芽に影響を与える場合があります。

7．園芸作物の土づくり推奨資材

品名	サンライム	苦土石灰 （粉・粒）	硫マグ
規格	20kg	20kg	20kg
商品写真			
施用量（10a）	野菜：4袋	野菜：3袋	野菜：3袋
特徴	●酸度を矯正し、ホウ素など微量要素の補給ができます。 ●多孔質な構造の為、溶解性に優れます。 ●粒度分布が幅広く、効果が持続します。 ●カキ殻石灰は土を固めず、柔軟にします。 ●発根促進に効果があります。 ●化学肥料と同時施用ができます。 ●ＪＡＳ有機認証適合資材です。	●高成分の原石をそのまま粉末にした生の肥料です。 ●土壌の pH を矯正し、NPK のみならず作物に必要な微量要素の吸収を促進します。 ●土壌とゆるやかに反応し効果が永続きし、苦土の効きかたも緩効的です。 ●やりすぎによる害も起きにくく安心して使えます。	●水溶性苦土ですので、速やかに吸収利用されます。 ●光合成の活性化、炭水化物の合成量増大につながります。 ●新芽の葉緑素が増大します。 ●リン酸の吸収を高め、糖度のアップと品質の向上が期待されます。 ●ケイ酸の肥効を高めます。 ●速効性ですので、基肥・追肥ともに適しております。 ●植物の多量元素である硫黄も含まれております。

品名	パワーリン	28%重焼リン	レコルト
規格	20kg	20kg	1kg
商品写真			
施用量（10a）	野菜・花卉・茶桑 ：2～3 袋	野菜：2 袋	200ml~1L
特徴	●腐植酸を公定規格で許容される最大限の 20%とし、リン酸を最低限の 15%として、低リン酸・高腐植酸としました。 ●腐植酸はリン酸の土壌への固定をガードし、リン酸の肥効を高め、腐植酸の働きによって作物の根の伸長を速め生育を促進します。 ●副成分の苦土の働きも苦土重焼燐と同等の効果が期待できます。	●ホウ素やマンガン入りの高成分りん酸肥料としてまた土つくり資材の両方の特性を有します。 ●く溶性りん酸（遅効き）と水溶性りん酸（速効き）の両方を含み、土壌に固定されにくく、利用率の高い、りん酸肥料です。	●アヅリキッドよりさらに溶解性を高めたフルボ酸（水溶性腐植）液肥です。 ●フルボ酸は植物への活性が高く根張り、ストレス軽減等に役立ちます。 ●沈殿しにくいため他の液肥、農薬と混用しやすくなりました。 ●野菜に利用されやすい硝酸性窒素を１%、水溶性加里を８%含みます。

作物の健全な生育のために適切な養分補給を行いましょう！

8. 柑橘・新改植時の土づくりについて

定植してからの土づくりはなかなかできません！
改植時に思い切った土づくりを!！

1. 定植時の土壌づくり

★ 完熟堆肥　　3t/10a　★ 苦土石灰 100kg/10a

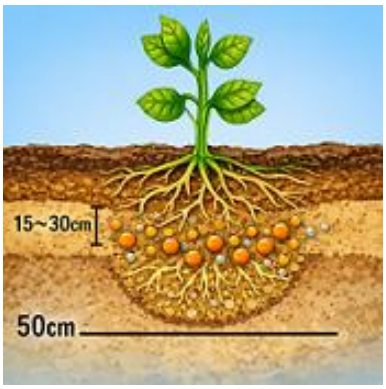
『完熟堆肥』の投入により、土の物理性改響を実施し、団粒構造を促進させましょう！

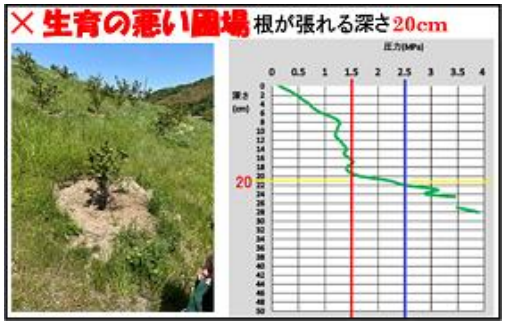
『苦土石灰』等の石灰質資材の投入により、土壌の酸度壊正を実施しましょう！

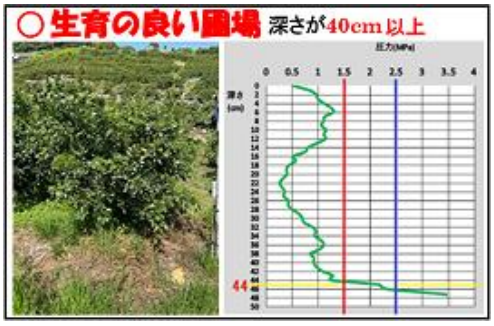
2. 定植時

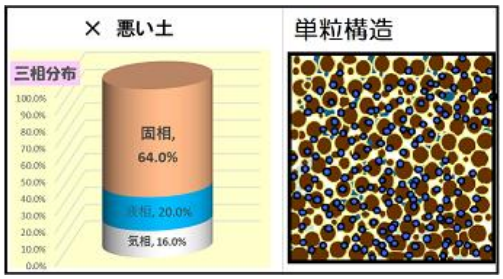
植え穴をできるだけ広く（60～70cm）、深く（50cm）堀り、植え穴の中に完熟堆肥や地力窒素的にゆっくりと肥効を示す資材を施用します。

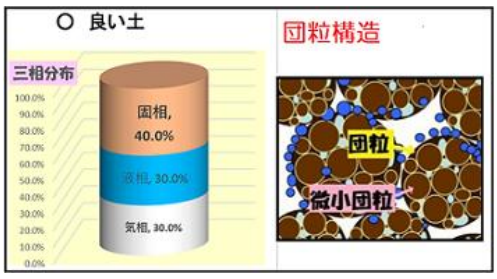
この時の深さが浅いと根が張らないため樹勢が悪いままとなり、何年も管理が難しくなります。苗の一生が決まる重要な作業です。











【土壌改良のための土づくり資材投入】

★『神協こはる（0-6-0（ケイ酸 14、苦土 3、アルカリ分 23）』

- 海藻アルギットとゼオライトに、ケイ酸、リン酸、苦土を配合。
- 発根促進作用と健全な生育のための土づくりに貢献。
- 植え穴に 1 本当たり 250～300g 施用する。（15kg/袋:30～60 本分）

【緩効性肥料の体系の場合】※２パターンの事例

〖パターン①〗

★『複合ルーツ（15-8-0（苦土 4））

- 緩効性窒素肥料の IB 窒素（豆炭状）
- 地力窒素のようにゆっくりと肥効を示す。
- 植え穴下層に１本当たり２０～３０個入れる。

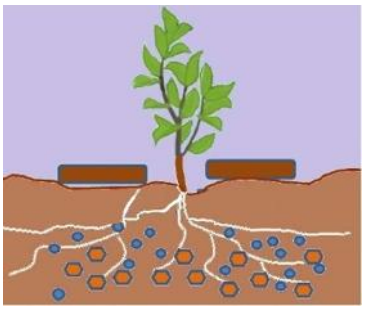
〖パターン②〗

★『苗木用一発 033 (20-3-3)』（施肥量：35kg/10m²）

・エコロング２６０１－１８０を配合しており、年間を通じて肥効が安定。

・『粒状固形肥料』による肥料成分の供給と土づくり効果を期待できる。

・コーティング肥料により施肥回数を減らすことが可能。

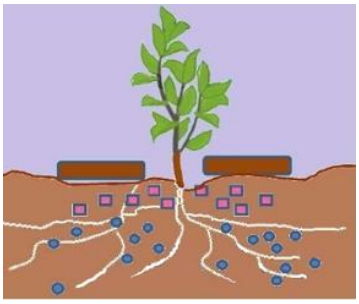


図：①施肥位置

神協こはる（改植時）

複合ルーツ（改植時）

ヤシガラ等



図：② 施肥位置

神協こはる（改植時）

苗木用一発 033

ヤシガラ等

【その他、土壌改良のための土づくり資材投入】

その他、根の張りやすい作土とするための資材として、バーク堆肥、完熟堆肥、ヤシガラ、もみ殻、微生物資材（トリコデルマ菌等）などがあります。

バーク堆肥（樹皮堆肥）

【土乃素】

団粒構造を作り、通気性・排水性を改善。

ヤシ殻

【ベラボン】

水はけと保水のバランスが良い。

５年間腐植せず物理性を維持。

近年使用例が増加。

完熟堆肥

（牛ふん・鶏ふん）

微生物を増やし、根圏環境を改善（主に鶏糞）。

物理性を改善（主に牛糞）。

微生物資材（バチルス菌・トリコデルマ菌）

【ハイフミン・ハイブリッドG】

土壌病害（フザリウム・リゾクトニア等）を抑制。改植時混和で初期生育安定。

腐植資材

【リブミン（粒）】

効果の長い腐植資材

土壌の団粒化し、生理障害の予防に。腐植成分は下層に浸透性。

パーライト・軽石

【ネニサンソ】

排水性改善が目的。

重粘土で水が抜けない園に有効。

粘土質・湿害が出やすい園に有効。